

はにわ通信

No.309 令和2(2020)年12月号

松阪市では、金剛川と中村川の近くに、弥生時代後期の遺跡が集中しているよ。

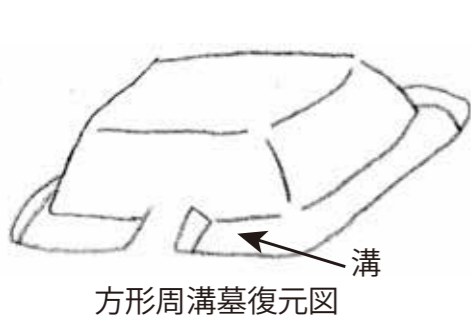


草山遺跡(久保町 第五小学校区)は、現在パークタウン学園前という住宅団地になっている丘の上に広がっている遺跡です。約40年前に大規模な発掘調査が行われました。その結果、弥生・古墳・奈良・鎌倉・室町時代の遺跡であることが確認され、「弥生時代後期から古墳時代初め」と、「鎌倉時代から室町時代」という2つの時期に大きな村があったことが明らかになりました。

今回のはにわ通信では、弥生時代後期から古墳時代初めにかけての草山遺跡の姿を紹介します。

【弥生時代後期から古墳時代初めの大きな村の跡】

この時代の一般的な住まいである竪穴住居は127棟、さらに、コメの保管庫や特別な役割をもつと考えられる掘立柱建物は111棟も確認されており、かなり大きな集落だったと分かります。



建物以外には、方形周溝墓と呼ばれるお墓が28基見つかりました。方形周溝墓とは、周りに溝を四角く巡らせ、溝を掘った土を中央に盛り上げて築いたお墓です。お墓の溝からはたくさんの土器が見つかり、土器の中には穴が空けられたものもありました。

これらの土器は供献土器と呼ばれ、お供え物として置かれたり、お葬式などのマツリに使用した土器であると考えられています。

また、金属器として小銅鐸が見つっています。銅鐸は、水田稲作に関係したマツリに使う道具と考えられています。草山遺跡の銅鐸は約5cmと小さく、鈴として自然にはない金属の音を響かせ、何らかの祈りをしたのでしょうか。

この時期の草山遺跡の姿を少しお話してきました。100以上の竪穴住居や掘立柱建物などをもつ大きな集落がつくられたのは、当時からこの地域が暮らしやすい場所であったからかもしれません。みなさんどのように考えますか。

(担当)



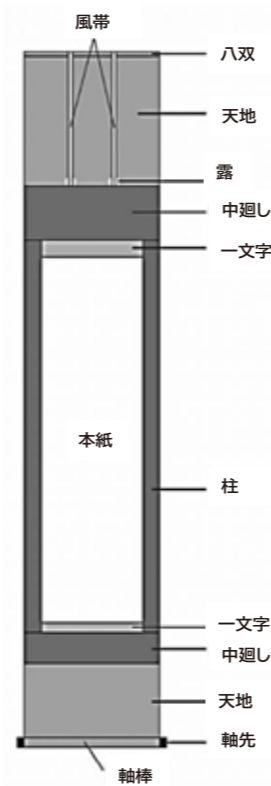
小銅鐸

【12月 師走】

令和2年も最後の月となりました。本格的な冬の到来を前に、鈴の森公園には自然を楽しみ、散歩やひと時を過ごす人が訪れています。ギャラリーやはにわ館には、芸術文化を楽しみに多くの方にご来館いただいています。



はにわ館特別展「離合山水図に魅せられて」も好評のうちに6日に会期を終えましたが、松阪ゆかりの文化財を紹介する企画に高い関心と期待を感じるご感想を多くいただいております。「あらためて松阪の歴史や文化を見直す機会になった」、「文化的なものへの関心や来館のきっかけになった」というものや、「松坂の商人と文化人の交流に感心した」、「離合山水図が二つ並んで展示されていることに感動した」など、アンケートに書いていただきました。その他の記述も含め、書いていただきました貴重なご意見は、今後の企画や運営にいかしていきたいと思ひます。ありがとうございました。



今回の特別展は、掛け軸の作品ばかり16幅展示しました。一番関心を集めたのが、二つの離合山水図です。伊孚九と青木夙夜「本紙」の絵画部分を見比べていただきましたが、表装(軸装)について少し触れてみたいと思ひます。

どちらも軸と軸を合わせるために本紙両側の「柱」は細くなり、軸先はついていません。二つの違いは、伊孚九の離合山水図には、風帯がついていることです。すっきりとアクセントにするために貼り風帯がついているようです。

一般的な軸の名称を紹介しますので、これからの年末年始、軸を飾る時や掛け軸を見かけた時、書画とあわせて表装にも興味を持ってみてはいかがでしょうか。

(所長)



文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

12月の休館日は、7日(月)、14日(月)、21日(月)、12/28(月)~12/31(木)
1月の休館日は、1/1(金)~1/4(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)です。
開館時間は9:00~17:00です。

【はにわ館】入館料110円(18歳以下無料)*入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

【ギャラリー】入場無料

第1G ■第7回嬉野フォトクラブ 12/2(水)~12/6(日)9:00~17:00 ※最終日は16:00まで
第2・3G ■「景観絵画展」~わたしの好きなまつさかの風景~ 12/5(土)9:00~16:00 12/6(日)9:00~15:00まで
第2・3G ■第27回三重県立松阪工業高等学校繊維デザイン科 卒業制作展 12/10(木)~12/17(木)9:00~17:00 ※最終日は12:00まで



文化財センター情報は
こちら